

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社 WAKABA		
事業所名	グループホーム ひだまり上郷		
所在地	〒028-0771 岩手県遠野市上郷町佐比内46-23-2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な食事提供を心掛ける(旬のものを出す)手作り。</li> <li>・三密を避け、出来る限り地域との関わりを大切にする。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所のある地域は、市の東部に位置し、周辺には地区センターや小学校、デイサービス施設等がある。地域との繋がりを大事にして信頼を得ることが必要と考えて、「人と人を心で結ぶ」という理念を掲げて利用者の支援に注力している。地区センターが主催する官公署業務連絡会議の一員として参加したり、地元の老人クラブや小学校、保育所などとの交流活動にも積極的に取り組んでいる。今年はコロナ禍のために外出支援が思うように行えない状況にあるが、バス・バイクのような遠くに代えて少人数で、馴染みの神社巡りのドライブや近所の散歩など、工夫して対応している。ハザードマップでは、近くの河川の浸水想定区域内にあり、近所の住民に避難協力をお願いする等の努力をしている。今後は更に実践的な避難計画の作成を検討している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	穏やかな笑顔で利用者に接し、「人と人を結ぶ」ホームを常に心がけています。	地域との繋がりや利用者の信頼感が大切と考え、「人と人を心で結ぶ」という理念を定めている。理念はホールに掲示し、職員は「人と人を結ぶ」を常に心掛け、地域の方と声をかけあったり、老人クラブや踊りの会の方々との繋がりを大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方々との交流、付き合いを職員それぞれに取っている。	現在、コロナ禍のため交流を自粛しているが、普段から地区の老人クラブの花見や小学校の運動会にお誘いがあり参加し、近所の保育園児の来訪もあり交流している。地元のボランティアがマンドリンや大正琴を演奏してくれるほか、地区の婦人団体「かすみ会」の皆さんが踊りを披露してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の住民の方(老人クラブ等)と利用者の交流を通じ、認知症への理解を促しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において、月々の活動を報告しアドバイスを頂きながら、サービス向上に向けて日々努力している。	委員会は、地域の区長と老人クラブ会長、市職員等で構成され、利用者の生活状況やサービス内容を報告し、協議されている。委員のメンバーは、事業所の行事の際の協力者ともなっている。なお、コロナ禍のため3月以降は未開催となっており、課題となっている。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、集合開催に換えて書面開催により意見等を頂くよう検討を期待したい。併せて、民生委員の参加についての検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの疑問点、困りごとは市町村担当者へ逐一報告、アドバイスを元に問題解決に努めている。	運営推進会議には毎回、市の介護保険担当者が参加しているほか、地区センターの月例会議には事業所からも参加しており、行政との連携は図られている。また、地域包括支援センターとは電話や出向いたりし、個別事例の相談などで日常的に連絡しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について理解している、判断が付かない場合には市町村担当者にその都度相談している。	身体拘束をしないケアの理解促進のため、職員会議での研修や外部研修からの資料回覧などを行っている。夜間の施錠は、防犯のため夜8時頃から朝の7時頃までとしている。スピーチロックについても、その都度注意しあったり、職員会議において話題として共通理解を進めている。	身体拘束の適正化を進めるための諸手続き等に関し、整備状況を再度確認願います。

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近研修の場を設けることは出来ていないが、虐待については見過ごしの無いようお互いに注意をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を利用されている方がいる事から把握されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に関してはその都度必要に応じて実施して居る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望と常に反映出来る取り組みを心掛けている。	家族の来所に加え、作成した帳票を持参して、毎月職員が利用者と一緒に自宅を回っている。家族は利用者との会、職員と情報交換する良い機会となっている。利用者は、意思表示できる方と困難な方が混在しているが、「外に出たい」とか「塗り絵したい」などの要望があり、できるだけ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や直接代表と意見・提案の機会を持つことは可能である、	職員からは日常の業務の中で積極的に意見が出されているほか、月1回の職員会議においても意見が出されている。意見をもとに安全確保対策として、オープンキッチンを改装してホールとの間に衝立を設置するなどしている。社長との個人面談は年1回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件整備に関してはお互いの希望等が合致しないこともあり今後も仕事に向上心をもって働ける整備は必要と思う。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受ける機会をの確保に関しては前向きな考え方を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、同業者が開催する研修会や交流会に参加しているが、今年はコロナの影響で実施されていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と接する際に、要望等はないか傾聴し、日常生活の中でも不安なことや困っている事を見取れる様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の訪問調査でご家族様の思いを聞き取り、又、面会や電話連絡の際に要請等はないかを伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の訪問調査でご本人にとって最善の支援が出来る様、本人や家族からお話を伺い、必要に応じて他のサービス等についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者が出来ることを見極め自主的に行えるようサポートしている(掃除やテーブル拭きなど)。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等を計画し、ご家族に参加をお願いしているが、今年はコロナの影響で実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人・友人の方が気軽に訪問出来る様に又、面会に来た際にはゆっくりと過ごして頂く様に務めている。	利用者が地域や知人等との関係を維持できるよう、職員と近所のコンビニに出かけたり、実家を訪れたりしている。また、神社へのお参りが習慣となっている利用者は、機会あるごとに各地域にある馴染みの神社に連れて行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でも多く参加出来るように生活の中に取り入れ提案をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞き入れて、その人に合った支援をし、困難な方を職員が把握し必要に応じた支援を心掛けている。	意思疎通が難しい利用者が多くなっている。思いや意向が掴めない時には、利用者との会話の表情や動作から推し量ったり、「散歩しようか」などと、興味や関心が有りそうなものを示して様子を見るなど、試行錯誤しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りを行い、出来る限りの生活歴を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活環境を観察・把握し一人一人に合った生活リズムが送れる様に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	交流の場や話し合い・会議等の中で意見交換を行いその後介護計画作成を行っている。	ケアマネが3ヵ月毎にモニタリングを行い、6ヵ月毎に計画の評価と再アセスメントを行っている。利用者の状態に変化があれば、職員間でその都度検討している。重要事項を話し合う職員会議で介護計画を議題とし、全職員でその内容を共有している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に観察・記録をしてお互いに気づきを共有し、その結果を踏まえて計画作成に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支える為に家族さんの不安に思っている事に傾聴し、より良いサービスが提供できる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々との繋がりを大切にしている。暖かい環境の中で安心して過ごして頂けるように支援している。ボランティア等で踊りや楽器演奏を披露して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望を聞き、かかりつけ医・訪問診療を選択して頂く、必要な治療が出来る様支援に取り組んでいる。	現在は6人が、事業所の協力医である遠野市内の内科医院をかかりつけ医としており、月1回の訪問診療を受けている。ほかに2人は専門病院を、1人は県立病院をかかりつけ医としており、原則として家族が付添っての受診となっている。家族付き添いで受診の場合、ケース記録の写しを渡し担当医に説明していただき、受診後は結果について家族から報告を受けている。状況が理解できない時には、受診した病院に電話で状態を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤していない、職員同志で日々の変化を話し合い、かかりつけ医に相談し早めの受診を心掛けている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は職員が付き添い、病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っていない、重度化した場合は、家族と話し合い、他の施設等の申し込みを事前に説明し実施している。	入居時に重度化した場合の対応について説明し、同意を得ている。利用者の状態が悪化した場合、家族と話し合いのうえ、特養等への住み替えとなる場合もある。終末期の看取りケアについては、中長期的な課題と認識しているが、協力医の確保が見込めない状況にあるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送りや職員会議等で対応の仕方や状態を見て対処するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様が避難出来る方法を地域の人達と話し合い、職員全員で協力する体制を築いている。	年2回、消防職員立ち会いのもとで避難訓練を行っており、うち1回は近隣の市社協デイサービスと共同で訓練している。近所の方3人に避難時の協力をお願いしている。ハザードマップでは浸水地域となっており、近隣のデイサービス施設とともに、安全確実な避難先の確保が課題となっている。	ハザードマップでは浸水想定区域であり、大雨による水害も予想されることから、より実践的で安全確実な避難計画について、行政等の関係機関の方針を確認しながら、十分に協議していくことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保・言葉かけや対応には常に心掛け対応しています。	利用者への対応として、失禁した際の羞恥心への配慮や、トイレ誘導時のさりげない声掛け、居室への入室時のノックなどを励行し、誇りやプライバシーを損ねないケアを心掛けている。スピーチロックのような乱暴な言葉遣いについても、申し送り時などに確認し合っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いをなるべく聞き入れながら対応していくよう常に努力を重ねています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を尊重し、その人らしい過ごし方を支援していくよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者本人の好みを聞きだし、自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや片付けをして頂き、好みを聞きながらメニュー作りを心掛けています。	献立と調理は職員が交替で担当している。食材は市内のスーパーから購入しているが、地域の方からは野菜等の差し入れもある。利用者の中には、テーブル拭きや下膳を手伝う方もいる。普段なら、バスハイクで外食を楽しむこともあるが、コロナ禍で今年は出来ていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人との会話の中から摂取量や好みに応じた対応を心掛けています。一日の水分等も出来るだけ確保出来るよう声掛けを行いながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせた声掛けや一部介助、出来ない方には全介助での口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時々失敗される方もおられる為声かけ・誘導を行なっていますが、殆どの方が自分のタイミングで出来ています。	布パンツ使用で自立の方が2人で、他はリハビリパンツを使用している。オムツ使用者はいない。利用者は、尿意・便意によりトイレを利用しており、それぞれする動作等の排泄サインにより声掛けや誘導を行っている。たまに失敗もあるが、多くの方が自分のタイミングで排泄ができています。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が来ているかどうか自分で解らない方が多い為、掃除の際に確認をし、水分の摂取や飲食物の工夫予防にも取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回は確実に実施中、体調不良や拒否があった場合は、日をずらして入浴できるよう支援をしています。	利用者の希望等に応じて、週2回の入浴を基本としている。同性介助の希望者や入浴を嫌がる方はいない。職員は、入浴時の羞恥心や負担感・抵抗感などに配慮しながら、世間話を交えながら、入浴を楽しめるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	養護に関しては此処の自由に任せています、夜間は安眠できるよう声掛けし、居室の温度や保温に注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては全職員が理解し服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いの有る生活を過ごせるよう、個人の希望に沿った支援が出来るような取り組みを心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたい方には職員が付き添って散歩に出かけています、また時間が有る時には利用者をドライブ等に連れて行っています。	コロナ禍のためバスハイクなどの遠出の外出が出来なくなっているが、散歩に出かけたい利用者には職員が付添って歩いたり、ドライブに出かけたりしている。全体での外出は難しい状況にあるが、景色の良い場所や馴染みの神社などには、少人数でも出かける支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持した利用者様が買い物したい時には職員が付き添い、買い物に出かけています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話が出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では利用者がくつろげるスペースを確保し壁には季節を感じられる様利用者職員と一緒に制作しています。	ホール中央にはテーブルとイス、壁側にはソファが置かれ、ホール壁面には利用者が作成した塗り絵等が飾られている。空調は大型エアコンで冷暖房されている。暑い夏だったが、利用者の中には「エアコンが冷たい」という方もいて、調整しながら対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間では利用者の方々がゆっくりくつろいだり自由に座ってお話出来るよう、ソファの配置を工夫したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では自宅で使っていた物を持ってきて頂いたり、ご本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室には、トイレとベッド、洗面台が備え付けられ、エアコンで冷暖房管理している。利用者は、衣装ケースやテレビ、時計、家族写真等を持ち込んでいる。月に1回はカレンダー作りを行っており、これを壁に飾るなどして居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活出来るよう本人や家族と話し合い、環境整備に努めている。		